

偶感

中村重義

桜、桜、桜まみれの吉野山西行庵への道辿りゆく

一文字を端緒に一首成りてゆく
私の雑多な知識を詰めて

詠嘆のほど佳き翳り持つ歌よ
モカの香薫る珈琲に似て

風呂場にて筑前今様低唱す小督ことくの塚には久しく行かず

日田彦山線で日田へ出ていた頃思う鵜飼そろそろ始まる頃か

出口調査で何党かと問われ無しと答う革新政党力なき世に

減便され小型化されたバスが今のろのろと坂上りゆく見ゆ

戦終りて七十七年わが前を無辜むこの死がまた通り過ぎゆく